

# 伊予と土佐の隠れ家

## 1. はじめに

3年前の2011年11月16日～18日、瀬戸内海沿いの高松（金毘羅）、丸亀（かずら橋、丸亀城）、松山（松山城、道後温泉）をハウスメーカー（年商150億円）の社長ご夫妻の案内で四国旅行をした。昨年、お嬢さんの結婚を控え家族水いらずの旅で軽井沢の我が家にお招きした時、来年は高知に行く約束をした。今回は、伊予と土佐の隠れた食事処に惹かれ思わず飛び込んだ見学先を記載する。

## 2. 松山市→今治市内（11月20日）

羽田発松山着のJALで飛んだ。松山で、お嬢さんとお茶をして、その後今治市内で海が見える「海鮮北斗」（和食処）で食べた小エビのかき揚げ天麩羅が絶品だった。

続いて、木彫りの達人玉置玉泉氏（金子屋家具店主）の銘木を製作する工房を訪れ、家内は釘付けとなった。それぞれの木の持つ特徴（木目、木肌等）を生かした茶道具、お盆、小物に至るまで美術工芸品である。師が製作した黒柿の小さな瓢箪を頂いた。

夜は、料亭「千本松」で来島海峡の流れの早い海で、1本釣りで捕れた重さ1kg、長さ45cmの大きなサバの刺身はサバの匂いも無く生まれて初めて食べた絶品。釣り上げたサバを1日イケスに放置してサバのストレスを取ってから調理すると板長から伺い、『成る程、絶品とはこう言うことか!』と4人共納得。また、アコの刺身も初めて食べたが味は食感も鯛を越えるものであり美味しかった。ここでは、伊勢海老、鯛など新鮮な魚が食べられる。今治市内から料亭「千本松」に行くには来島海峡の来島大橋を渡って行く。



黒柿の瓢箪



来島海岸沿いの「千本松」



来島大橋

宿泊は、“満天の湯” / 「千本松」（今治市吉海町名駒）で波音を聞きながら瀬戸内海を眺め、来島海峡原水の海水の露天風呂で心行くまでのんびりした。海水は、身体の芯から温まり、海水浴と同じく身体が浮く。

## 3. 西条市→高知市（11月21日）

午前中は、案内者のご両親の持家をリホームした自宅を訪れた。建築が専門とあって、銘木や廃材を利用し建材を生かした住宅が目に見え飛び込んできた。

玄関には、湧き水を利用したツクバイの水受けの音が清々しく、庭は純日本式で住宅とマッチしている。応接間から日本庭を通して南の行く手に横たわる四国山脈が冬には真っ白い雪化粧で素晴らしい借景になる。庭の中に湧き水を利用した露天風呂（夏に使用）を設け、太陽熱を利用したお湯になっている。中庭に通ずるくぐり戸は、格子状に編んだ昔の建材を利用しており、実に趣きがある。

今までは、入手することが出来なかった昔の建具を利用した建材の利用方法は非常に参考になった。



S氏宅の玄関



湧き水をツクバイに



日本庭



庭から四国山脈を望む



庭の中の露天風呂



中庭へのくぐり戸



中庭から見たくぐり戸

土塀は屋根に瓦を乗せ、壁はお寺の壁の様に瓦の断面を埋め込こみ実に手の込んだ作りになっている。この住宅は湧き水が豊富であるから、ホタルを育てたい夢があり、ホタルを誕生させる経験則を伝授した。今治市から高知市へは、高速道路で90分程要するが、これ迄も冬になると雪で指導会に遅刻する受講者の経験から、高速道路を避けて紅葉を観ながら山道の峠をドライブすることにした。途中、山の中にもみじの中にひっそり佇む「歓喜庵」(西条市黒瀬市上の原)でソバ食べた。長野や山形で美味しいソバを食べていたが、ここのソバは美味しかった。宿泊室は3室ありひなびた山中の宿で、隠れ宿に相応しい所である。

夕方高知駅に着き、駅前の「こうち旅広場」を訪れ、駅前広場に幕末に活躍した坂本龍馬像ら三志像がそびえ立っていた。龍馬伝幕末社中には、龍馬が育った住居(38坪)と屋根裏の龍馬の部屋(3坪)が展示されていた。



坂本龍馬ら三志像



龍馬の家屋の室内



長太郎貝

夜は、料亭「葉山」(高知市はりまや町)で夕食を取った。疲れを、ぬれそれ(ウナギの稚魚)、ウツボの天麩羅で元気付けた。そして、ホタテの形をした色鮮やかな貝の長太郎貝に出会ったが始めてであった。はりまや橋近くのホテルで21:00に睡眠爆睡した。

#### 4. 高知市 (11月22日)

早目のスタートで8:00過ぎには桂浜に向かった。9:00迄の駐車場は無料だった。



桂浜



桂浜の高台に立つ龍馬

今回の主目的は、私が今新鎌ヶ谷市内に建築中の設計者(ワークステーションの高橋晶子先生、高橋寛先生)が設計された「坂本龍馬記念館」を見学することだった。

海援隊約規は、龍馬が歴史街道に残した最初の足跡。最後は大政奉還直前、龍馬が後藤象二郎に託した命がけの手紙が展示されている。太平洋に向かって突き出した青と赤の記念館。館の南詰に立てば、“龍馬の見た海は果てしなく希望に続く”龍馬の声が聞こえてくる。

設計者、高橋晶子先生、寛先生を知っている私でありながら、両先生が設計された館が芯から理解出来ず、両先生と私との間には大きな隔たりがあると痛切に感じた。



記念館の正面



正面から見た記念館



海に向かって建てられた館

その後、多くの高山植物を発見され、私がバイブルにしている牧野富太郎博士の「牧野植物園」(高知市五台山)に立ち寄った。5~6月は珍しい高山植物に人目を惹きつけられると思うが、今は花が終わっていたが、長年の夢が果たせた私には大きな収穫だった。



牧野植物園



花あればこそ吾れも在り



晩秋の植物園

昼食は、市内のウナギ専門店「源内」でウナギを食べた。お腹が空いていなかったが、ウナギの焼き方が美味しくペロリと食べてしまった。昨今、ウナギが高騰し美味しいウナギに出会う機会が無かったが、皮目の焼きも香ばしくイヤー！本当に美味であった。

続いて、竹林寺（高知市五台山）の山門をくぐって本堂に向かう参道の両側のもみじが紅葉し始め、文殊大菩薩像に対面するワクワクした気持ちを落ち着かせてくれた。「五台山竹林寺」で秘仏本尊文殊大菩薩の1200周年開催で、文殊大菩薩像が50年振りの公開中に出会った。これが最初の最後になると本仏像に向かって両手を合わせて合掌をした。本仏像は蓮の上に置かれた犬の上に乗って座っておられた。高さ約1m弱、幅約80cm程の像であった。ところが、120年もの時間が経過している仏像とは思えず、靈感極まる菩薩像であった。



五台山山竹林寺



本堂



五重塔

高知発迄のフライト時間に余裕があったので、高知城を見学することにした。私は、肺の手術後1ヶ月だったので、3合目で休憩して登らず、急ぎ足で天守閣迄30分余り要したようです。

無理すれば、三菱商事を設立した岩崎弥太郎の生家に車を走らせたが、次回の楽しみに残した。



竹林寺山道のもみじ



高知城

## 5. あとがき

今は、全身麻酔の手術を受け1ヶ月後なので、四国旅行をためらっていたが、案内者ご夫妻の人柄そのままに心温まる気配りと細やかなもてなしに終始感動した。そして、初めて体験することばかりの多くの四国の旅となった。

再び、元気を取り戻し、自分の経験を生かした企業活性化と若手経営者の育成に尽くしたいと決意を新たにした。

以上

2014年11月24日

横林寛昉